

連携データ症例マッチ率算出

| | |
|-----------|------|
| 施設様症例 | 442 |
| 消防庁(大阪のみ) | 7705 |

| | |
|------|---------------------------------|
| 合致件数 | 施設様の症例と、消防庁からの連携データが1:1で紐付け出来た件 |
| 重複件数 | 施設様の症例と、消防庁からの連携データが1:多で紐付けされた件 |
| マッチ率 | 施設様症例と合致件数の割合 |

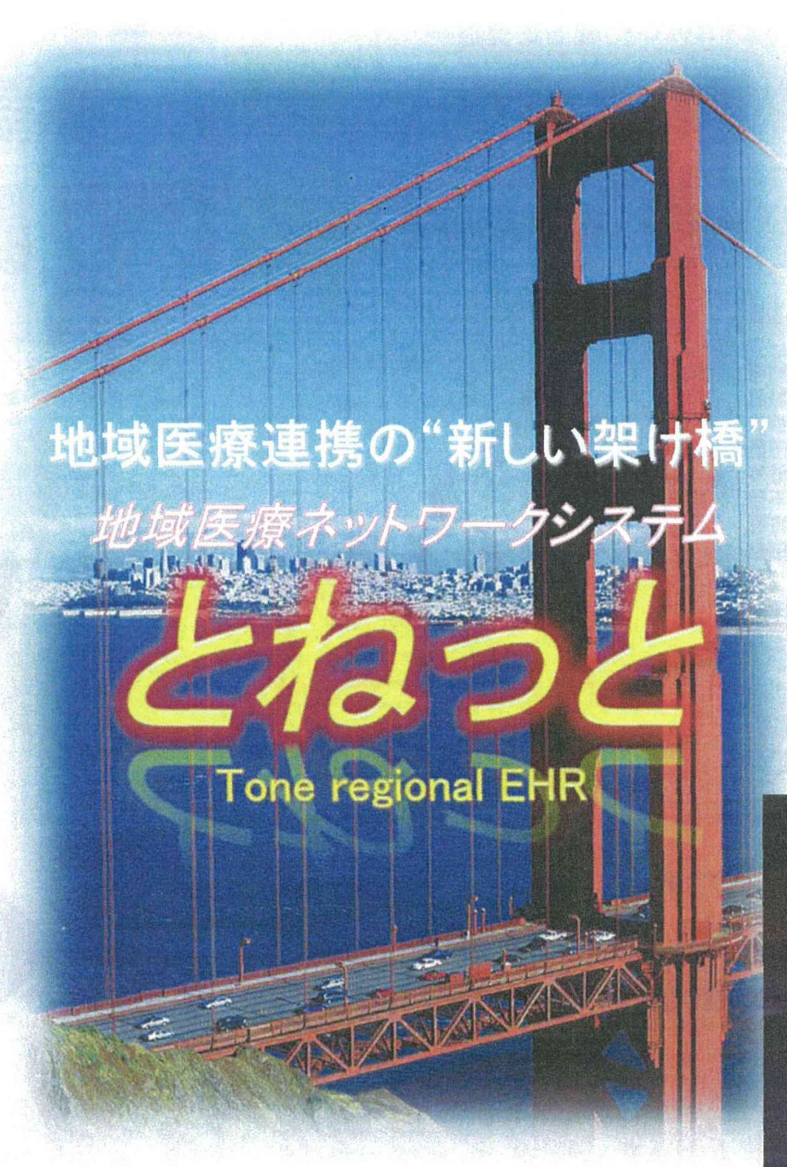
性別と覚知時刻のみでマッチング

| ↓覚知時刻 | 合致件数 | 重複件数 | マッチ率 |
|-------|------|------|------|
| 前後0分 | 357 | 6 | 81% |
| 前後1分 | 403 | 8 | 91% |
| 前後5分 | 394 | 30 | 89% |
| 前後10分 | 365 | 63 | 83% |
| 前後30分 | 261 | 171 | 59% |

性別、覚知時刻、年齢でマッチング

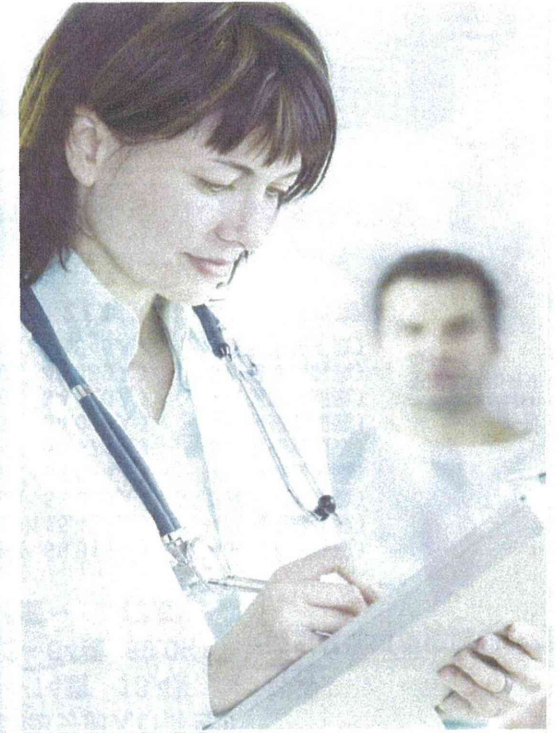
| 年齢→ ↓覚知時刻 | 0歳 | | | 前後1歳 | | | 前後2歳 | | | 前後3歳 | | | 前後4歳 | | | 前後5歳 | | |
|--------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | 合致件数 | 重複件数 | マッチ率 | 合致件数 | 重複件数 | マッチ率 | 合致件数 | 重複件数 | マッチ率 | 合致件数 | 重複件数 | マッチ率 | 合致件数 | 重複件数 | マッチ率 | 合致件数 | 重複件数 | マッチ率 |
| 前後0分 | 325 | 1 | 74% | 347 | 1 | 79% | 347 | 2 | 79% | 348 | 2 | 79% | 350 | 2 | 79% | 350 | 2 | 79% |
| 前後10分 | 382 | 2 | 86% | 403 | 4 | 91% | 399 | 9 | 90% | 400 | 11 | 90% | 400 | 13 | 90% | 399 | 15 | 90% |
| 前後20分 | 383 | 3 | 87% | 402 | 7 | 91% | 390 | 20 | 88% | 388 | 25 | 88% | 387 | 28 | 88% | 384 | 32 | 87% |
| 前後30分 | 382 | 4 | 86% | 398 | 11 | 90% | 385 | 25 | 87% | 384 | 30 | 87% | 375 | 42 | 85% | 373 | 44 | 84% |
| 前後40分 | 381 | 5 | 86% | 394 | 25 | 89% | 379 | 31 | 86% | 377 | 37 | 85% | 375 | 42 | 85% | 362 | 56 | 82% |
| 前後50分 | 383 | 5 | 87% | 389 | 21 | 88% | 372 | 39 | 84% | 369 | 46 | 83% | 368 | 51 | 83% | 354 | 66 | 80% |
| 前後60分 | 384 | 5 | 87% | 388 | 23 | 88% | 370 | 42 | 84% | 366 | 50 | 83% | 363 | 57 | 82% | 349 | 73 | 79% |

Ⅲ . 資料



地域医療連携の“新しい架け橋”
地域医療ネットワークシステム

とねっと
Tone regional EHR



埼玉利根保健医療圏医療連携推進協議会
※「とねっと」は埼玉利根保健医療圏地域医療ネットワークシステムの愛称です

埼玉利根保健医療圏の現状

利根保健医療圏の現状



埼玉県は医師数・看護師数・医療施設数が全国で最も低い水準であり、中でも利根保健医療圏は高齢化率が高く、医療リソース不足が顕著です。

埼玉県全体



利根保健医療圏



人口総数 662,824人

年齢3区分別人口割合

- ・0～14歳 13.4%
- ・15～64歳 69.0%
- ・65歳～ 17.6%

出典：
埼玉県地域保健医療計画

| | |
|----------------------|-------------------|
| 行田市 (88,815人) | 43(医療機関数) |
| 加須市 (115,497人) | 45(医療機関数) |
| 羽生市 (56,693人) | 32(医療機関数) |
| 久喜市 (154,684人) | 76(医療機関数) |
| 蓮田市 (63,474人) | 31(医療機関数) |
| 幸手市 (54,006人) | 31(医療機関数) |
| 宮代町 (34,620人) | 12(医療機関数) |
| 白岡町 (48,389人) | 31(医療機関数) |
| 杉戸町 (46,646人) | 18(医療機関数) |
| 総計 (662,824人) | 319(医療機関数) |



※医療機関数は
平成23年6月末
のデータ

150

医療施設に従事する医師数(人口10万人あたり) **全国47位**
医療施設に従事する看護師・准看護師指数(人口10万人あたり) **全国46位**

医療施設に従事する医師数(人口10万人あたり) **10医療圏中10位**

一般病院病床数(人口10万人あたり) **全国46位**
一般病院数(人口10万人あたり) **全国41位**
一般診療所数(人口10万人あたり) **全国47位**

一般病院数(人口10万人あたり) **10医療圏中5位**
一般診療所数(人口10万人あたり) **10医療圏中6位**

出典：統計でみる都道府県のすがた 2011(総務省) ※平成20年のデータ

出典：統計でみる市区町村のすがた 2011(総務省)
※医師数・病院数・診療所数は平成20年のデータ

地域医療ネットワークシステム「とねっと」について

1 協議会設立までの経緯及び「とねっと」の概要

近年の医療環境は、地域偏在や診療科ごとの需給不均衡による医師不足に加え、看護師も不足し、年々厳しくなっている。私たちの住む埼玉県東北部の「利根保健医療圏」は、人口当たりの医師数が県内で最も少ない地域である。

こうした中、中核病院へ患者が集中することにより、医師や看護師をはじめ、さまざまな医療従事者への負担が大きく、中核病院での最適な医療サービスが提供できなくなっている。

一方、長寿社会の進展とともに、住民の医療問題への関心はますます高まっており、安心して健やかな生活を送ることができるよう住民を見守り支援する地域医療の役割は一層大きく、重要な課題である。

そこで、利根保健医療圏内の医師会長、中核病院長と9市町（行田、加須、羽生、久喜、蓮田、幸手、白岡、宮代、杉戸）の首長などがこの解決に向け「埼玉利根保健医療圏医療連携推進協議会」を設置。かかりつけ医を中心とした日常的な医療を基盤としながら、地域の医療機関が役割を分担連携し、地域全体で市民の医療を完結する「地域完結型医療」を目指した体制をIT技術を活用して取り組むこととした。

地域医療ネットワークシステム（愛称・とねっと）は、国の地域医療再生臨時特例交付金を活用して構築し、中核病院、病院、診療所、画像診断施設、臨床検査施設がインターネット回線を通じてデータセンターで医療データを共有し、治療に役立てていくものである。103（平成25年度現在、118）の医療機関などが参加して、昨年7月から本格稼働している。

この仕組みに参加希望した住民には「かかりつけ医カード」を無料で発行し、受診の際にカードを提出すれば、医療データの共有によるかかりつけの病院・診療所と地域の中核病院との連携が図られる。さらに、救急車には「とねっと」のデータを取り出せる専用のタブレット端末を配備し救急措置に必要な患者の病名や薬の処方などを瞬時に参照、適切な措置と救急搬送の迅速化に活用できる。

2 経過

| 年度 | 月日 | 実施内容 |
|--------|----------|---|
| 平成21年度 | 11月6日 | 埼玉県が、「埼玉県利根保健医療圏における地域医療再生計画」を国に提出 |
| | 1月29日 | 国が、「埼玉県利根保健医療圏における地域医療再生計画」の採用 |
| 平成22年度 | 7月20日 | 「埼玉利根保健医療圏医療連携推進協議会」を設置、協議会（第1回）の開催 同協議会に「ヒューマンネットワーク部会」と「ITネットワーク部会」を設置 |
| | 8月5日、20日 | 「ヒューマンネットワーク部会」と「ITネットワーク部会」の合同部会を開催 |
| | 9月10日 | 外部講師を招いての意見交換、今後の議論の方向性等 ・国のIT医療政策の第一人者 東京医科歯科大学大学院 田中教授 ・国の地域医療再生計画に係る有識者会議委員長 自治医科大学 梶井教授 |
| | 8月5日～ | 利根地域医療連携連絡協議会（圏域の行政担当課長会議）を月1～2回程度必要に応じて開催 |
| | 10月21日 | システムワーキンググループ設置（以後、月1～2回開催） |
| | 11月30日 | 協議会（第2回）の開催（システムの方向性の確認・決定） |
| | 2月15日 | 協議会（第3回）の開催（ユースケースの確認・決定） |
| | 平成23年度 | 6月6日 |
| | 7月19日～ | 公募によるプロポーザル方式での開発業者の選定 |
| | 8月22日 | 協議会（第5回）の開催 （契約の承認、協議会の権利能力なき社団への移行、課題調整すべき事項（費用負担、医療機関の参加、かかりつけ医カードの詳細仕様） |
| | 11月15日 | 協議会（第1回臨時）の開催（システムの運用・費用負担・愛称等・県立病院の参加） ※8月22日から協議会を権利能力なき社団として運営 |
| | 1月31日 | 協議会（第2回臨時）の開催（追加契約、費用負担、事務局運営、システム運用、参加募集） |
| | 2月10日～ | 参加医療機関の募集受付開始（～3月15日）、住民・患者の参加周知 |

| | | |
|--------|--------|--|
| | 3月1日～ | 住民・患者の募集受付開始 |
| | 3月17日 | 地域医療ネットワークシンポジウムの開催（パストラルかぞ） 約230人参加 |
| | 3月27日 | 協議会（第3回臨時）の開催 （参加医療機関の状況、契約、事業計画及び予算、規程） |
| 平成24年度 | 4月1日 | システムの試験運用開始 |
| | 6月26日 | 協議会（第1期通常）の開催（平成23年度決算等） |
| | 7月1日～ | システムの本格稼働、オープニングセレモニー開催 |
| | 8月20日 | 参加登録者5,000人を超える |
| | 10月19日 | 協議会（第4回臨時）の開催 （普及・啓発、第2期募集、シンポジウム、個人情報保護方針） |
| | 1月29日 | 協議会（第5回臨時）の開催 （普及・啓発、契約、第2期募集、シンポジウム） |
| | 3月23日 | 地域医療ネットワークシンポジウムの開催（久喜総合文化会館） 約280人参加 |
| | 3月25日 | 参加登録者10,000人を超える |
| | 3月29日 | 協議会（第6回臨時）の開催 （平成25年度事業計画及び収支予算について等） |
| | 3月31日 | 参加医療機関等 118となる。 |
| 平成25年度 | 6月21日 | 協議会（第2期通常）の開催（平成24年度決算等） |

※会議等の開催状況（平成25年7月31日現在）

- ① 協議会 13回
- ② 協議会下部組織（作業部会 36回、システムワーキンググループ 47回、行政関係者会議 47回）
- ③ 説明会 28回（医師会 26回、医療機関 2回）

埼玉利根保健医療圏医療連携推進協議会の構成

(平成22年7月～)

協議会

(医師会)

行田市医師会、北埼玉医師会、加須医師会、南埼玉郡市医師会、北葛北部医師会

(行政)

行田市、加須市、羽生市、久喜市、蓮田市、幸手市、白岡市、宮代町、杉戸町

(中核病院等)

済生会栗橋病院、久喜総合病院、行田総合病院、東埼玉総合病院、土屋小児病院、北埼玉医師会立メディカルセンター、加須市医療診断センター

(埼玉県等)

加須保健所、幸手保健所、監事

作業部会

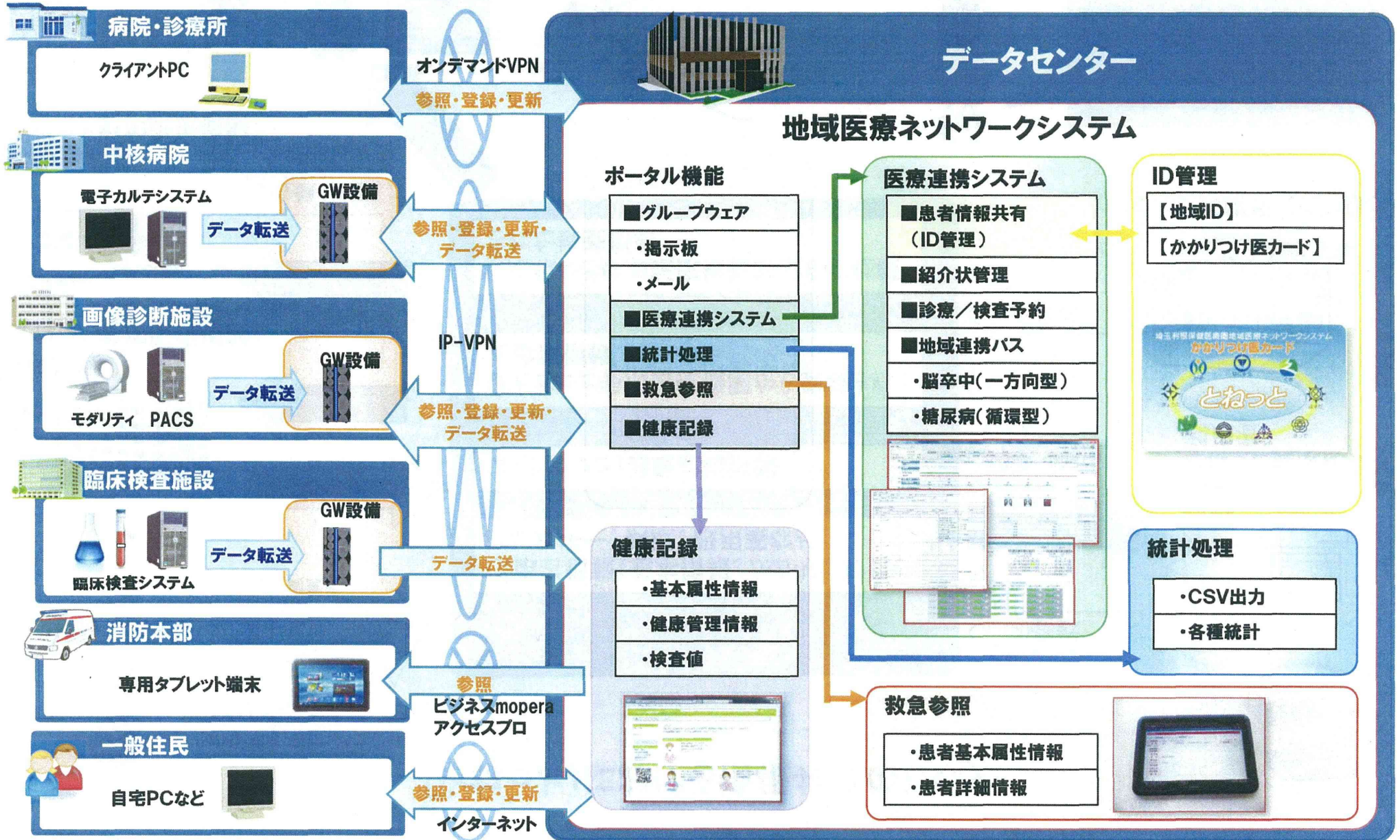
・ヒューマンネットワーク部会

・ITネットワーク部会

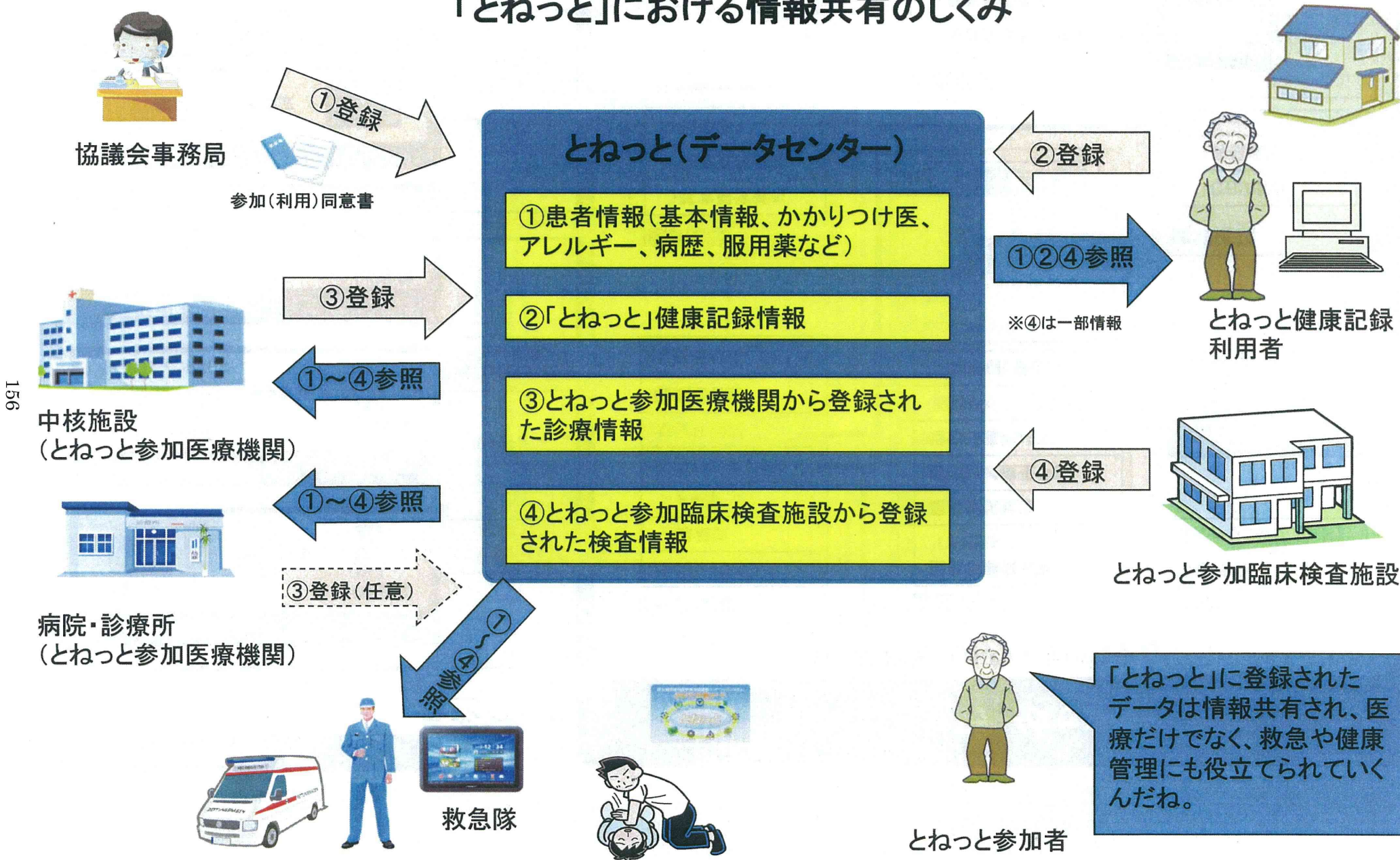
・システムワーキンググループ

行政連絡会議(市町の担当課長)

「とねっと」システム概要



「とねっと」における情報共有のしくみ

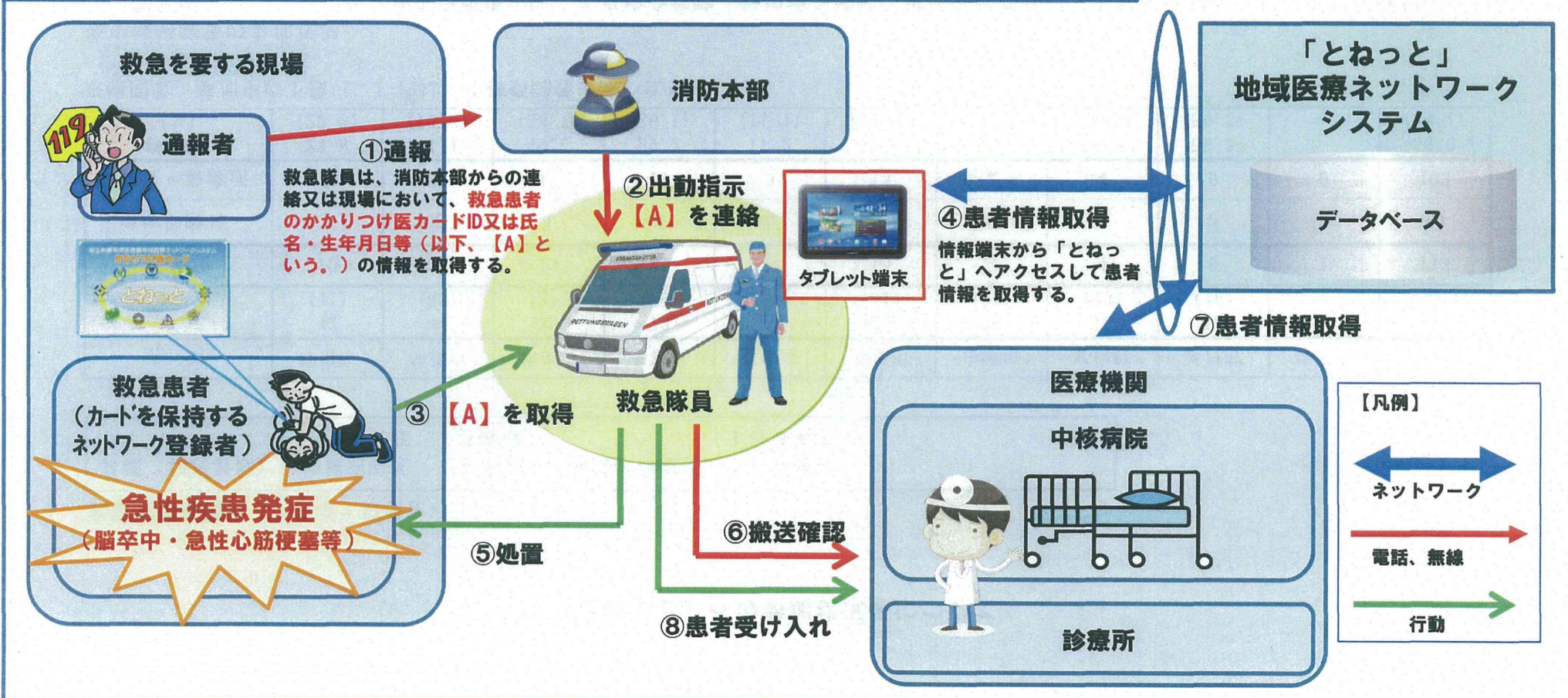


「かかりつけ医カード」を活用した救急患者搬送支援に関する取り組み

「かかりつけ医カード」は、地域医療ネットワークシステムに同意した住民に発行されるもので、システムに保存された患者情報を参照するためのカードです。

救急時には救急隊がこのカードを活用し、救急に必要な患者情報を取得することにより、救急患者の迅速な処置や搬送に役立てることができます。

かかりつけ医カードを活用した救急患者搬送支援イメージ



「とねっと」への参加状況等について

1 参加医療機関数（7月31日現在）

| | | | | |
|----------|-------|------|--------|--------|
| 目標（利根計画） | 中核病院等 | 6施設 | 病院・診療所 | 100施設 |
| | （現在 | 15施設 | | 103施設） |

| 市・町 | 行田市 | 加須市 | 羽生市 | 久喜市 | 蓮田市 | 幸手市 | 白岡市 | 宮代町 | 杉戸町 | 埼玉県 | 合計 |
|------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|--------------|----------------|----------------|-----|----------------|
| 機関数 | 42 (41) | 44 (43) | 32 (31) | 72 (69) | 29 (27) | 32 (31) | 30 (30) | 13 (13) | 16 (16) | | 310 (301) |
| 参加数 | 10 | 32 | 13 | 21 | 5 | 16 | 2 | 4 | 9 | 1 | 113 |
| 中核病院等 | 1 | 1 | 1 | 3 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 10 |
| 病院・診療所 | 9 | 31 | 12 | 18 | 3 | 15 | 2 | 4 | 9 | 0 | 103 |
| 参加率 (%) | 23.8 (22.0) | 71.1 (70.5) | 40.6 (38.7) | 29.2 (26.1) | 17.2 (11.1) | 50.0 (48.4) | 6.7 (6.7) | 30.8 (30.8) | 56.3 (56.3) | | 36.0 (34.1) |

※機関数、参加率の下段（ ）内は、中核病院等を除いたもの。

※中核病院等の参加状況

- ・ 圏域内 9（済生会栗橋病院、久喜総合病院、行田総合病院、東埼玉総合病院、土屋小児病院、蓮田病院、独立行政法人 国立病院機構 東埼玉病院、羽生総合病院、加須市医療診断センター）
- ・ 圏域外 1（県立循環器・呼吸器病センター[熊谷市]）

2 参加臨床検査施設

- ・ 臨床検査施設 5（北埼玉医師会立メディカルセンター、保健科学東日本、第一臨床医学検査センター、BML、三菱化学メディアエンス）

3 参加住民（患者）数等（7月31日現在）

| | | |
|----------|---------|-----------------------|
| 目標（利根計画） | 50,000人 | （H24.10.1現在 663,509人） |
|----------|---------|-----------------------|

| | 行田市 | 加須市 | 羽生市 | 久喜市 | 蓮田市 | 幸手市 | 白岡市 | 宮代町 | 杉戸町 | 合計 |
|------------------|--------|---------|--------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 参加同意者 | 208 | 5,616 | 387 | 2,693 | 126 | 1,057 | 78 | 653 | 1,589 | 12,407 |
| 人口 (H24.10.1) | 86,035 | 116,516 | 56,462 | 155,975 | 63,478 | 54,108 | 50,872 | 33,081 | 46,982 | 663,509 |
| 加入率 (人口比) | 0.24% | 4.82% | 0.69% | 1.73% | 0.20% | 1.95% | 0.15% | 1.97% | 3.38% | 1.87% |

4 普及・啓発の方法

| 行政 | 参加医療機関（中核病院、診療所） |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 広報紙、ホームページ、チラシ、ポスター、回覧 ・ 各種団体や会議等での説明・出前講座 ・ 協議会ホームページの作成（6/1～） ・ 出張受付 ・ DVDの放映 ・ 老人ホーム・老人保健施設等の個別説明会 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 医師から患者へ直接参加の呼びかけ ・ 住民等パンフレットの窓口への設置、啓発ポスターの貼付 ・ 院内掲示（ステッカー）、DVDの放映など ・ 協議会ホームページの掲載 |

5 利用者の状況(7月31日現在 12,384人)

| 登録者数 (注) | 年齢構成 | | | 性別 | | かかりつけ医 | | 紐付け(実数) | |
|-------------|-------|--------|-------|-------|-------|--------|-------|---------|-------|
| | 20歳未満 | 20～64歳 | 65歳以上 | 男 | 女 | 有 | 無 | 有 | 無 |
| 12,384 | 440 | 4,729 | 7,215 | 6,169 | 6,215 | 9,778 | 2,606 | 3,896 | 8,488 |
| 割合 | 4% | 38% | 58% | 50% | 50% | 79% | 21% | 31% | 69% |

(注)「登録者数」は、受付済みの参加(利用)同意者のうちシステム登録済みの人数をいう。

①紐付け患者(延べ数)の状況(7月31日現在)

| | | 行田市 | 加須市 | 羽生市 | 久喜市 | 蓮田市 | 幸手市 | 白岡町 | 宮代町 | 杉戸町 | 県 | 計 |
|-------------|---------|-----|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|---|-------|
| 紐 付 け | 参加医療機関数 | 10 | 32 | 13 | 21 | 5 | 16 | 2 | 4 | 9 | 1 | 113 |
| | 医療機関 | 3 | 27 | 6 | 12 | 2 | 9 | 1 | 3 | 7 | 1 | 71 |
| | 患者 | 10 | 1,662 | 31 | 601 | 5 | 395 | 17 | 348 | 827 | — | 3,896 |

※医療機関数 118 - 臨床検査機関 5 = 113施設

6 医療連携の状況(7月31日現在)

中核病院等と一般の病院・診療所との間で「とねっと」を活用した医療連携が進み、患者の血液検査データなどの医療情報の共有が図られ、診療に役立てられている。

中核病院等と病院・診療所の連携状況（7月31日現在）

| 医療機関名 | 紐付け患者数 (人) | うち、市内医療機関 との紐付け患者数 | 市内紐付け医療 機関数（施設） |
|----------------|---------------|-----------------------|--------------------|
| | | | |
| 厚生連久喜総合病院 | 240 | 39 | 23 |
| 行田総合病院 | 3 | 3 | 3 |
| 東埼玉総合病院 | 1,266 | 11 | 5 |
| 蓮田病院 | 6 | 2 | 2 |
| 国立病院機構 東埼玉病院 | 接続調整中 | | |
| 羽生総合病院 | | | |
| 土屋小児病院 | 15 | 1 | 1 |
| 県立循環器・呼吸器病センター | 5 | 4 | 4 |
| 医療診断センター | 88 | 54 | 19 |
| 合 計 | 2,405 | 313 | 84 |

7 救急搬送での利用（平成24年7月～平成25年6月末まで）

・搬送人数 60人（うち37人について「とねっと」の端末を参照し、かかりつけ医、持病・病歴、アレルギー等を確認の上、搬送に活用）

8 総務省「地域ICTの成功事例」への採用

地域におけるICT利活用の成功事例に関する調査研究事業として、「とねっと」が総務省のホームページで紹介された。

無料

埼玉利根保健医療圏

地域医療ネットワークシステム『とねっと』

安心

『とねっと』は、地域の病院、診療所、画像診断施設や臨床検査施設などを安全なネットワークで結び、患者さんの情報を共有するシステムです。

多くの方の参加が『とねっと』を育てます。



1

より安心して質の高い医療が受けられます！

検査結果や処方などの情報を共有

大きな病院と診療所を受診する場合、診療所で病院の検査結果や処方の内容を見られるので、検査や投薬の重複も防ぎやすくなります。

患者さんの情報が共有されるので、大きな病院で手術して退院した後も、紹介された診療所で安心して治療を受けられます。

糖尿病などの患者さんが複数の医療機関を受診する場合、医師の間で治療方針や検査結果が共有されるので、安心して治療を受けられます。

中核施設

(大きな病院など)

診療所

2

もしものときに役立ちます！

万一、自宅や外出先で突然倒れてしまったときも、カードを携帯していれば、救急隊員が必要な患者情報を取得して、患者のいち早い処置や搬送に役立てることができます。



万一救急車を呼ぶようになるといった場合に、救急隊がすぐに発見できるように、身につけておきましょう。

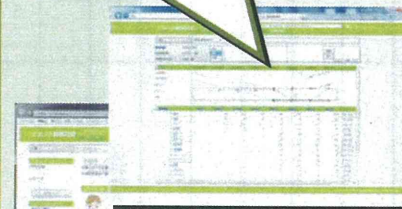
救急医療現場

3

健康管理に役立ちます！

血糖値や血圧が気になる場合などに、パソコンやスマートフォンで、自分で測定した数値を登録したり、病院などで受けた検査の結果を見たりできます。継続して利用することで、自身の健康管理に役立ちます。

<とねっと健康記録>



自宅

- 『とねっと』には、利根保健医療圏内(行田市、加須市、羽生市、久喜市、蓮田市、幸手市、白岡市、宮代町、杉戸町)に在住の方が無料で参加できます。
- 『とねっと』参加医療機関は、協議会ホームページからご覧いただけます。
<https://sites.google.com/site/tonetsince2012>
- 『とねっと』は、利根保健医療圏内の医師会や中核施設、自治体、加須・幸手保健所などで構成する埼玉利根保健医療圏医療連携推進協議会が管理・運営しています。

全国初！

地域医療を支えるために、行政が参加し、医師会や中核施設、検査機関などと構築した医療連携システムは、全国初です。

埼玉利根保健医療圏医療連携推進協議会事務局
〒347-0031 加須市南町5-15 (埼玉県加須保健所内)
TEL 0480-63-0003 FAX 0480-63-0033
E-mail tonet@rhythm.ocn.ne.jp

「とねっと」に参加するには

① 必要な書類を用意

手続に必要な次の書類を用意します。

- ① 本人確認ができる書類（免許証や保険証など）
- ② 服用薬の名前が分かる書類（お薬手帳など）

※ ②は必要に応じてお持ちください。

② お住まいの行政窓口へ

とねっとの受付窓口で参加の手続をします。

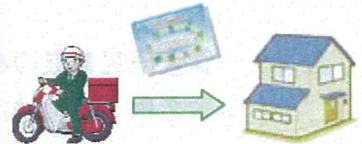
- ① 『とねっと参加(利用)同意書』に記入。
- ② 持参した書類を提示し、確認を受ける。



③ カードを受け取る

「かかりつけ医カード」が郵送されます。

2週間ほどで、ご自宅に「かかりつけ医カード」が届きます。



※ 本人が受付窓口で手続できない場合は、家族や友人などが代わって手続することもできます。

※ 本人確認書類(免許証や保険証)は、「とねっと」に参加される方のものお持ちください。

※ 『とねっと参加(利用)同意書』は、各行政窓口のほか、「とねっと」に参加している病院・診療所などにもあります。

※ 書類の郵送による申込みも可能です。郵送する場合は、『とねっと』参加(利用)同意書』に必要事項を記入し、保険証や免許証などのコピーを添えて、協議会事務局へ郵送してください。

「かかりつけ医カード」の使い方

とねっと参加医療機関にかかるとき

「かかりつけ医カード」を提出します。

- (注)
- カードを提出しないと、医療機関で「とねっと」の情報を見られません。
 - 医療機関ごとにカードを提出する必要があります。(それぞれ最初の1回のみ)



その他のとき（普段は）

救急現場で救急隊がカードを発見しやすいように、わかりやすく身につけておきましょう。



- (注)
- ・ 医療機関の間で共有する情報は、お薬や検査結果などのすべての情報ではありません。
 - ・ 「とねっと」に参加していない医療機関では、「とねっと」の利用はできません。

総務省「地域ICTの成功事例」への採用について

このたび、総務省が行う「地域におけるICT利活用の成功事例に関する調査研究事業」において、「とねっと」が地域におけるICT利活用の優良事業として採用され、紹介されました。

1 調査研究事業の概要

事業名称： 地域におけるICT利活用の成功事例に関する調査研究事業

実施主体： 総務省（アビームコンサルティング（株）へ委託）

実施内容： 全国の大学の有識者から、各地域で行われているICTを活用した先進事例の紹介を受け、総務省HPにて先進事例として紹介

2 とねっとの推薦者等

推薦者： 山形大学大学院 医学系研究科 医療政策学講座 村上 正泰 教授

推薦理由： ①ITの利活用面が幅広くあって選択の余地があること。
②「かかりつけ医カード」を導入し、住民に安心感を抱かせるような仕組みを構築していること。
③救急車にタブレット端末を配備して活用していること。
④患者だけでなく、住民の健康づくりを支援する機能も備えていること。

3 HPに掲載（別紙のとおり）

「ICTを利活用した様々な取組について」 総務省のホームページに「とねっと」が紹介された。

（紹介事業16事業のうち医療・遠隔医療3事業）

<事業成功のポイントと今後の課題・展望>

事業成功のポイントは、医療機関と市町の長が協議会へ参加し「顔の見える関係」を構築したこと
 今後の課題は、利用者の増加に向けた広報活動、安定した運営費の確保、調剤薬局等との連携

事業成功のポイント

事業成功のポイントは、医師会長や中核病院の長などが、多忙にもかかわらず、地域の医療課題の解決に向けて積極的に関わってくださっている点と、医療圏内の全ての市町の長が協議会に参画し、尽力してくださっている点にあると考えています。
 以前から、全国で地域医療連携の取組を行っている事例は多数ありましたが、成功事例がほとんど報告されていなかったこともあり、利根保健医療圏で、こうした医療連携の仕組みを導入しようと検討を始めた当初は、関係者の共通の理解を得るのに苦労しました。
 そこで、医師会長、中核病院長及び行政の首長の参画を得るとともに、ITを用いた医療連携の前提として「顔の見える関係」を第一に考え、地区医師会ごとに説明会を開催するなど、数十回にわたる協議、調整を行うことで、合意形成を図ることができました。

今後の課題と展望

今後の課題は、①参加者の増加への普及啓発、②安定した運営費の確保、③調剤薬局等との連携です。
 ①については、現在は、ネットワークシステムに参加できる住民（患者）を利根保健医療圏内に在住する方に限っていますが、今後、ネットワークシステムに参加する医療機関の患者であれば、誰でも参加できるようにするなど、運営区域を拡大していき、将来的には、システムを県域全体に拡大していきたいと考えています。
 ②については、現在、県補助金（地域医療再生臨時特例交付金）を最大限活用していますが、事業の継続性を確保するため、安定した財源の確保について検討を進めています。
 ③については、在宅医療への展開を見据え、調剤薬局等との情報連携を検討しています。

導入概算費用等

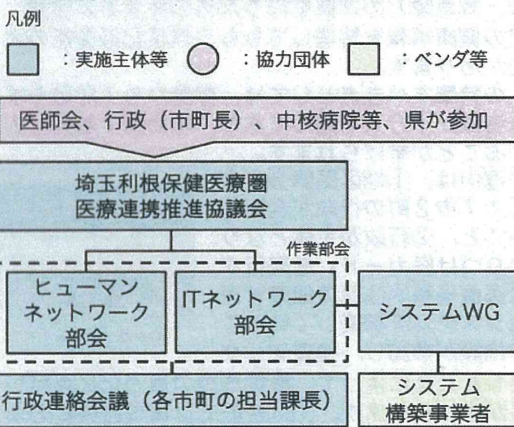
本システムを導入した場合の概算費用

- ・導入費用：4億4336万円（内訳：システム構築費4億4336万円）
- ・運用費用：4,563万円/年（内訳：事業経費1,124万円、保守費3,439万円）

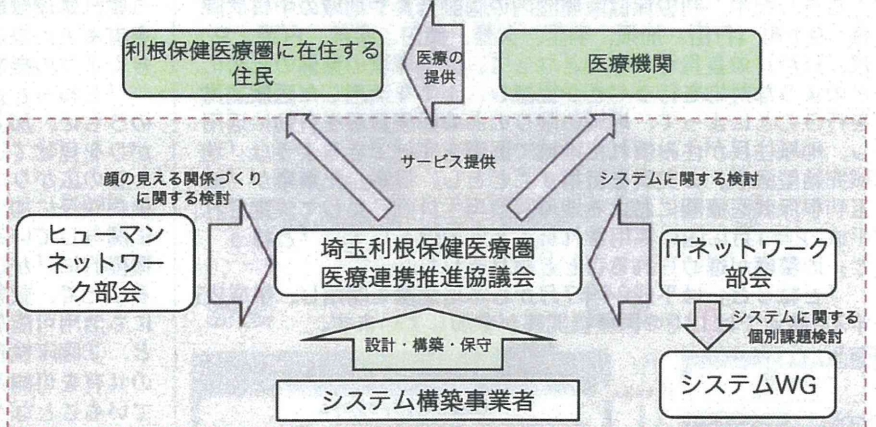
事業実施体制

事業主体：埼玉利根保健医療圏医療連携推進協議会
 サービス提供対象：利根保健医療圏に在住する住民、医療機関等

事業実施体制



事業実施相関図



<事業主体の横顔>



住民（患者）、医療機関、行政が共通の理解を持って、信頼を築きながら、地域全体で市民医療を支えたい

埼玉利根保健医療圏医療連携推進協議会
 〒347-0031
 埼玉県加須市南町5-15
 (埼玉県加須保健所内)

<本件に関する問合せ先・導入検討・視察の相談先>
 埼玉利根保健医療圏医療連携推進協議会事務局
 TEL:0480-63-0003

mail:tonet[atmark]rhythm.ocn.ne.jp
 ※スパム対策としてメールアドレスを一部変更して記載してあります。
 eメールを御送付の際は、「[atmark]」を「@」に変えてご利用ください。
 調査協力：山形大学 村上正泰教授

「埼玉利根保健医療圏地域医療ネットワークシステム『とねっと』」

実施団体：埼玉利根保健医療圏医療連携推進協議会（実施エリア：利根保健医療圏）

埼玉県は、人口あたり医師数や看護師数、医療施設数が全国で最も低い水準であり、なかでも、利根保健医療圏（人口約66万人）は、高齢化率が高く、医療資源の不足が顕著な地域である。こうした状況で、今後、ますます長寿化が進み、医療を必要とする住民の増加が見込まれる中、いかにして質の高い医療を提供し続けていくかが大きな課題となっている。

そこで、埼玉利根保健医療圏医療連携推進協議会（会長：加須市長 大橋良一）では、「かかりつけ医カード」（住民が、地域医療ネットワークに参加している医療機関及び救急隊等に本人の医療情報の共有に同意していることを示すカード）とITを活用して、ネットワークに参加する医療施設間で患者の医療情報を共有し、診療に役立てる地域医療ネットワークシステム「とねっと」を構築し、運営している。本システムの導入により、医療の質の向上を図るとともに、紹介・逆紹介の円滑化や検査や投薬の重複防止などにつなげることを目指している。

また、救急車にタブレット端末を配備して、救急隊が現場で「とねっと」に登録された患者の医療情報を参照できるようにし、患者への適切な処置や搬送先の迅速な選定に役立てるなど地域医療の改善を目指した先進的な取り組みが進められている。

地域課題

- 人口あたり医師数や看護師数、医療施設数が全国で最も低い水準であり、なかでも、利根保健医療圏は、高齢化率が高く、医療資源の不足が顕著な地域である。
- 今後ますます長寿化が進み、医療を必要とする方の増加が見込まれる中、いかにして地域住民に質の高い医療を提供し続けていくかが大きな課題となっている。

目的・目標

- ITを活用した医療連携を行うことによって、地域の限りのある医療資源を有効に活用し、地域住民が住み慣れた地域で医療を完結できるような「地域完結型医療」を実現する。
- 救急現場において、救急隊がネットワークシステムに登録された患者情報を参照することによって、救急患者への適切な処置と搬送先選定の迅速化に役立てる。

<事業の経緯・背景>

地域医療を支えるために行政が積極的に参加

「かかりつけ医カード」を活用し、病院、診療所、検査施設、救急隊との連携を実現

― 事業の経緯・背景を教えてください。

埼玉利根保健医療圏は、全国的にも人口あたり医師数や看護師数、医療施設数が大変低い水準にあります。一方で、長寿化に伴い、今後ますます医療需要が増すことが予測されるため、住民が安心して生活できる医療環境の整備が喫緊の課題となっていました。

こうした中、利根保健医療圏内の医師会長や地域の中核病院長、9市町（行田、加須、羽生、久喜、蓮田、幸手、白岡、宮代、杉戸）の首長等が中心となって、医療環境の整備のために、どのような対応を行うべきか協議し、ITを活用した医療連携を行うことによって、地域の限りのある医療資源を有効に活用し、地域住民が住み慣れた地域で医療を完結できるような「地域完結型医療」の実現を目指すこととし、提案した事業が「埼玉利根保健医療圏における地域医療再生計画」として決定され、平成22年1月に国に採用されたことを契機として、「とねっと」の整備が進められることとなりました。

「とねっと」は平成24年7月から本格稼働を開始し、平成25年3月時点では118の医療機関等が参加しています。

― 「とねっと」の機能概要と他事例を比較し特筆すべき点について教えてください。

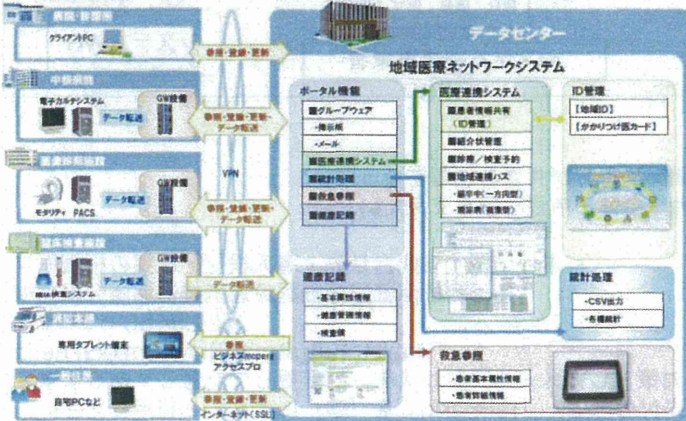
「とねっと」の機能としては、患者情報共有（地域ID、かかりつけ医カード）機能、紹介状管理、診療／検査予約、地域連携パス（脳卒中、糖尿病）等の機能を有する医療連携機能、掲示板・メール等のグループウェア、各種統計のCSV出力等を行う統計処理機能、救急隊との連携を行うための救急参照機能、患者本人に自己の健康情報を管理してもらう健康記録機能の大きく7つの機能があります。

「とねっと」の特筆すべき点としては、稼働から1年足らずのうちに、加入者数が1万人を超えており、短期間で着実に広がりを見せていることが挙げられます。

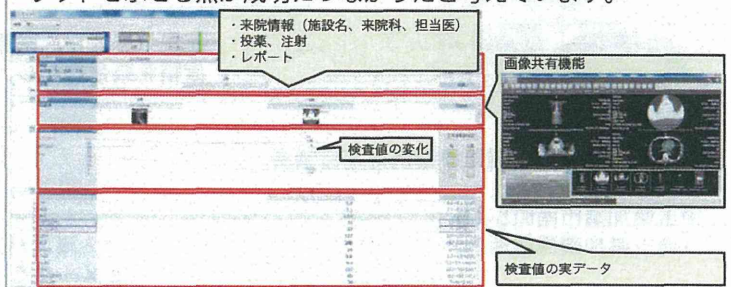
この広がり理由は、①地区医師会や中核病院等に加えて7市2町の行政が全面的に関与していること、②行政が主体となり、積極的に「かかりつけ医カード」を発行することで、救急医療現場や住民の健康管理にも活用可能なシステムを構築していること、③臨床検査施設が参加し、検査データの共有を可能としたことによって、医療施設の省力化に貢献していることなどが挙げられます。①は持続的な事業展開に必須であり、②と③は医療従事者にも住民にも説得力を持ってメリットを示せる点が成功につながったと考えています。



「かかりつけ医カード」



「とねっと」システム概要図



「とねっと」システム画面イメージ